32　ブールハーフェとハラーの「医学学習指南書」

澤井　直
順天堂大学医史学研究室

西欧の初期近代には「医学学習指南書」が多数出版されていた．その内容は①読書ガイド（各学習段階で読むべき書籍，読むべき順序），②医学の特質（学問・技芸としての医学の特徴，それに基づいた学習すべき分野），③態度（生活や学習に臨む際のあるべき態度の提示）など多岐にわたるが，医学学習者を補助するという目的から制作され，ひとつの書籍ジャンルを形成していた．

16 世紀初頭から 17 世紀までに，Caspar Bartholin や Daniel Sennert などの著名な医学者によるものなど数十冊の「医学学習指南書」が確認できている．18 世紀においても多数の存在が分類書誌目録に記載されているが，特に注目に値するのは同時代を代表する 2 人の医学者 Hermann Boerhaave と Albrecht von Haller の師弟が関係したものである．当時の西欧医学や医学教育に大きな影響を与えた Boerhaave の『医学学習法』（Methodus discendi medicinam, 1726）は数回再版され，Haller はそれを増補改訂し，『医学学習法』（Methodus studii medici, 1751）として出版した．

Boerhaave は『医学学習法』の執筆目的として，1）医学を諸学問と関係づけ，2）医学以外に学習すべき事項や医学の各分野について，何を，どの順番で学習すべきかを示し，3）読むべき著作家と書籍の導きを与える，の 3 点を挙げている．それ以前にも類例がある，①読書ガイドと②医学の特質の 2 つからなる「医学学習指南書」となっている．

Boerhaave において特徴的なのは，当時最新の研究を反映した構成になっていることである．Boerhaave は医学そのものから学習を始めるのではなく，物体・物質についての知識から始めることを勧め，Newton や Boyle 以降の物理学・化学を最初に学ぶべきだとし，その要点を記している．この自然哲学の部分は全体の 45 パーセント近くを占め，その上で医学について，植物学，解剖学，諸部分の用途，病理学，症候論，健康論，治療論，実地（外科，養生法）の順で，各分野の概要を記していく．Boerhaave の他の著作と同様に，機械論・化学を取り入れ，顕微鏡で観察される微細構造からなる人体像に基づいた医学が展開されている．

Haller は，師の Boerhaave の意図を引き継ぎ，より充実した読書ガイドを提供するように改訂を行なっている．Boerhaave の本文はほぼそのままに，脚注において Boerhaave 以降の各分野の成果を盛り込む．さらに Boerhaave は各分野の知見について主要な研究者の名前のみを挙げていたのに対し，Haller は関係する多数の研究書の書名・出版年などの詳細な書誌情報を提供している．Haller による Boerhaave『医学教程』の注釈書と同じように，『医学学習法』も頁内の本文部分よりも脚注部分の方が圧倒的に多い場合が多々ある．基本的には Boerhaave が示した枠組みに則った増補改訂版ではありながら，Haller 色の強い書籍となっている．

18 世紀医学を牽引した師弟による『医学学習書』は版を重ね，18 世紀においてよく参照されていた．19 世紀半ばの読書ガイドにおいても，医学学習の準備のための書籍として挙げられている．当時の医学について他の学問分野との関連や医学そのものの分野間の関係などの状況を物語る書籍として，歴史研究においても注目すべき著作である．

〈本研究は JSPS 科研費 25350386 の助成を受けたものです．〉